

巻 頭 言

学会における研究の発表、討論のあり方に関して

議 野 謙 治

昭和50年度秋季大会が多数の会員の参加のもとに多くの研究成果の発表と活潑な討論が行われましたことは会員の皆様とともに喜びたいと存じます。この様に、発表論文が増加するにもかかわらず、大会の日数を延ばすことはいろいろの事情から極めて困難であるために、心ならずも、講演時間、討論時間を切り詰めざるを得ないのが実情です。このことに関し、当然のことながら、多くの会員から十分な討論時間がほしいとの強い要望があり、今次の大会の際に行われた全国理事会においてもこれについて議論されましたが、結論は出ず、その改革は今後の検討すべき問題として残されました。

学会の発表会に関しては、どの学会も同じ様な問題をもち、いろいろの対策がとられておりますが、そのいずれも私達の日本気象学会にそのまま適用するには問題点があります。

現在、研究のテーマが多様化、専門化し、個々の専門については、その研究が深くなり、他の専門分野の研究者には理解し難くなっております。しかも、気象学の様な大気の中で起り、互に関連し、相互作用をしている現象を明かにするためには、異なる専門領域に属する研究者が相互に討論する必要があります。特に専門の異なる研究者が討論する際には、それぞれの専門分野の研究者もっている基礎知識が異なるために、充分の時間をかけないと互の理解が深まらないのが普通です。この様な問題を如何に解決するかは、新しい分野、学問の新しい発展を期待するために真剣に考える必要があります。その一つ方法として、これまでいろいろのテーマでシンポジウムが行われ、熱心な討論が行われ多くの成果をあげて参りました。しかし、シンポジウムではあらかじめ、比較的

狭いテーマが設定され、話題提供者数が限られ、解説的であるのが普通です。話題提供者も似た顔振れになる傾向もないとは言えない様です。学問の新しい発展のためには、もっと広い、自由な立場に立ったオリジナルな研究の発表、討論の場が必要ではないでしょうか。たとえば、地球大気のエネルギ収支に重要な問題をもつ雲の問題を中心として、放射、雲物理、エアロゾルをまとめたセッションあるいは分科会で充分時間をとって、それぞれの専門分野の研究成果の発表を行い、専門のクロスした討論を行う様なことをするのはどうでしょうか。大規模な気象力学とシノプティックの気象、観測方法の組合せ、降水を中心とした微物理学過程、メソ気象、中・大規模の組合せ、その他、いろいろの組合せがあり得ると思います。このとき注意を要することは、これまでのシンポジウムとは異り、解説的ではなく、それぞれの専門分野のオリジナルな研究発表を通じて討論が行われることが重要だと思います。もちろん、これまでの様な解説的な講演を含んだシンポジウムの重要性を否定するものではなく、これは今後とも大いに進めて行くことが必要だと思います。上に述べた様な方式のセッションあるいは分科会は馴れないうちは必しも充分な成果は発揮できないかも知れませんが、私の考えではこれを通じて必ず若い研究者が新しいテーマを見付け新しい分野を進展させ、また、これまでそれぞれの分野で成果を上げて来た研究者が新しい発展をする契機としても役立つのではないかと思います。理論、解析、実験、観測の諸分野の研究者の真の意味での協力、共同研究が行われるための基礎となるのではないのでしょうか。優れた理論的研究は新しい概念の発展、新しい問題の提起を行い、新しい観

測、実験の方法を示唆し、また優れた観測、実験は新しい事実を発見し、新しい理論の発展をうながすことは言うまでもありません。このことが、実際に行われるためには、上に述べた様な研究の発表、討論の場が必要なのではないのでしょうか。しかし、これを具体的にどの様な形で実現するかについては、時間の制限、開催の場所などについていろいろの問題点があります。

研究成果の発表、討論の方式について以上の様な私見を述べさせて頂きましたが、会員の皆様はそれぞれいろいろの御意見をおもちであろうと思いますので、是非その様な御意見をお寄せ願ひ、日本気象学会の最も重要な行事の一つである研究成果の発表の方法をより良くすることができればと考えております。

日本気象学会第19期役員選挙告示の付記の 一部訂正について

さきに本誌第22巻第12号に掲載しました選挙告示の付記のうち、細則第7条の1項に間違いがありましたので、次のとおりその一部を訂正します。

(誤) 関東地区(東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)……10名 加算分5名

(正) 関東地区(東京都、神奈川県、千葉県、茨城県、

埼玉県、群馬県、栃木県、新潟県、山梨県)……8名
加算分5名

中部地区(富山県、石川県、福井県、長野県、静岡県、愛知県、岐阜県、三重県)……2名

昭和51年1月7日

日本気象学会選挙管理委員会

(電話 03-212-8341 内線 400)

第18期第4回理事会議事録

日時：昭和50年10月29日 18:00~20:00

場所：大阪府商工会館 6階特別会議室

出席者：磯野、小平、浅井、朝倉、大井、奥田、神山、河村、北川、高橋、二宮、野本、丸山、各常任理事、川村、孫野、田中、伊藤、小林、中島、山元、坂上、沢田、各理事、藤田監事。

臨席者：安藤技術部長、川鍋調査課長(大阪管区気象台)

大西、田中、三宅各常任理事(関西支部)。

議題

1. 学会の財政問題

野本会計担当理事から、9月25日会計委員会でもとめられた昭和51年度財政の見通しについて説明された。

これについて、高橋理事から、学会賞、藤原賞の増額が提案され検討することになった。

2. 選挙管理委員長について

安井 正会員(気象庁海洋課長)にきまり承認された。

3. 会員名簿の作成、選挙人名簿について

事務局で作成することは、時期的に困難であり、また

作業を能率化するため、来年は直接会費から異動を連絡して貰い名簿を整備することにきまった。

4. 天気編集委員の追加

岡本利次会員(気象庁統計)を承認。

5. 気象集誌の編集委員の追加

嘉納宗靖会員(気研高物)を承認。

6. 大会運営について

朝倉担当理事から、春、秋大会の講演申込みについて(9月8日、常任理事会議事録参照)の検討結果を報告したところ、各理事から色々建設的な意見が出た。

来年春の大会は、原案通り試験的に実施することとし、分科会方式等の案について更に十分検討を行うこととした。

7. その他

(1) 第4回国際海洋開発展ならびに第4回国際海洋開発会議(シンポジウム)に協賛することを承認。

(2) 萩原長治郎氏を10月から正式に事務局職員とした。